

・4月当初お示した、「令和7年度 学校経営方針（概要版）A3版」に掲載した「令和7年度の主な取り組み」について、学校関係者、保護者、児童、職員のアンケート等も参考にしながら、令和7年度を振り返り、ご報告します。黒字が掲載された内容、青字が振り返りです

(1) 確かな学力を育む取組

- ・習得目標問題の定着を目指し、習熟度別指導の充実、年11回の「中北ベーシック」での放課後補習を効率よく活用する。夏季休業中にも。
- ボランティアの方々の支援を受けながら、実施できた。夏季休業中には甲ノ原中学生徒によるボランティアにも丁寧に見てもらうことができた。
- ・教員の授業力の向上を目指す。・校内研究で実態に合わせて教科担任制を探る。年3回、個人の授業公開に取り組み、授業についての情報交換を行い、互いの指導技術を向上させる
- 年3回以上の管理職、先輩教諭、指導主事による授業観察、授業公開を実施した。授業後のフィードバックも欠かさず行えた。学年の実態に合わせた教科担任制、合同授業を実施し、「児童を複数の教員が指導する」ことに着手できた。さらに研究を深めていく。
- ・一人一台の教育端末や ICT 機器を活用し個に応じた指導を全学級で取り組む。（情報リテラシー教育と両輪）
- 「八王子市版 情報活用能力系統表」を用い、教育端末を授業の中で活用した。情報教育については、外部講師を招聘した講習や、時機を得た、必要に応じて個別指導も行いながら進めている。
- ・地域環境、地域人材を生かした体験的な学習や郷土学習に取り組む。
- 読み聞かせ、ピオトープ作り、田植え、脱穀、カイコ、染め物、防災、減災教育など、たくさんの地域の皆様に外部講師として様々な活動を支えていただいた。ありがとうございました。

*楽しい、工夫した授業を実施し、よく考え 表現する子の育成への肯定的評価を80%以上
→肯定的評価は保護者93%、5、6年児童は92%

(2) いじめを許さない環境づくり

- ・「特別の教科 道徳」で自分事として捉えられる授業実践や、全教育活動を通し道徳的实践力を育てる。
- ・週1回の「いじめ防止対策会議」「校内委員会」を実施→生活指導にかかわる会議を週2回行った。
- ・子どもの現状を共有、全児童に全職員で寄り添い、いじめの未然防止、早期発見・解決に組織的に取り組む。
- ・教職員のいじめに対する感度をUPさせる。
- 火曜日6校時終了後…低、高、あさひで1週間の児童の様子を「気になること」「成長したこと」などを教員が出し合い、ミーティングする。ここに、専科や養護教諭、スクールカウンセラー、巡回相談員が参加し、持っている情報を出し合い、共有、記録する。
- ここで出された情報を基に、金曜日6校時に職員全員での情報共有、「校内委員会」「いじめ対策委員会」を開催し、情報の整理、実施可能な対応策の検討を行う。その後職員全員で委員会から提案された方策を共有、実施させる。…ここで実施された方策は、2週間以内に評価を行い、次の改善につなげる。
- 全職員で情報を共有することにより、職員の意識改革（いじめはどこにでも起きうることと、周囲にいる大人としてアンテナを高く張り、いじめの兆候を見逃さないこと）を行った。

（次項に続く）

(2) いじめを許さない環境づくり (つづき)

- ・「子ども見守りシート」を活用、家庭・地域の協力を得て学校以外の情報も広く収集し、きめ細やかな対応をする。
- 上記以外にも連絡帳等での情報共有にご協力いただきました。担任は即時管理職、対策委員会等に報告、対応策を決めることができました。
- ・「いのちの日」を設定、学年に合わせて SOS を出せる授業やいじめ防止に関する授業を実施、「イジメ ダメ ゼットイ」を徹底する。→八王子市全体で 7 月第 1 週、長期休業前に取り組んだ。
- ・常時「相談できる大人」がいるか確認する。→年 2 回行うアンケートに基づき「相談できる大人がいない」児童への聞き取り、追跡を行い、これを 0 人とすることができた。

いじめ防止の取組・生活指導の徹底についての肯定的評価を 80%以上

→肯定的評価は保護者 77%、5, 6 年児童は 84%

(3) 健やかな心と体の育成

- ・運動体験時間が 2 極分化している現状がある。
- ・体育授業の中で、運動時間を 20 分以上確保し、体を動かす楽しさを味わわせる。→評価方法が印象にならないよう工夫する。
- ・学期に 1 回以上運動週間を設け、めあてをもって取り組む児童を育成する。→2, 3 学期に持久走旬間を実施した。計測は令和 8 年 6 月に行う。
- ・学期に 1 回以上食育週間を設け、自分の体と食や環境からの影響を学ぶ場づくりを行う
- 栄養士発行の食育だよりが充実していた。おはし名人、枝豆、トウモロコシの皮むき活動など季節に応じた体験ができた。
- ・第 4 学年に「喫煙防止教室」第 6 学年に「薬物乱用防止教室」を実施する。→実施できた。
- ・縦割り班活動を日常活動（清掃、遊び）で異学年交流を深める場を作り、下学年が、上学年に憧れをもてるよう工夫する。
- 【認め合い、高め合い、みんなが輝く学校】にもかかわる中野北小での取り組みでもあり、しっかりと取り組んだ。「たてわりレク大会」を学校公開当日に実施し、保護者にも参観していただいた。

客観的な評価項目がない→来年度工夫する

(4) 特別支援教育の充実

- ・個に応じた支援を工夫する。教育のユニバーサルデザイン化。（苦手な子が分かる授業は、ほかの子にも分かり易い授業である）
- 3 回の授業観察を通し、取組の向上が見られた。あさひ教員によるインクルーシブ教育への取り組み指導も行えた。
- ・あさひ学級との人的（児童・職員）交流（学習・研修）の充実。インクルーシブ教育の実践。
- 個人差が大きいものの専科科目や、学校行事、縦割り活動、給食時間の交流を実施できた。
- ・けやき教室担当との連携、スクールカウンセラー、巡回相談員からの支援を受け、自らの指導を見直し、児童の指導に生かす。
- 担任が SC などからの専門的見地から、自分の指導を振り返り改善していく、よい機会をいただいた。

* 特別支援教育の充実と、個に応じた支援の工夫についての肯定的評価を 70%以上→肯定的評価 94%

(5)保護者・地域と連携した教育活動を実施する。

- 開かれた学校づくりを目指し、ホームページ更新に努力する。*学校の情報が適切に伝えられているについての肯定的評価を80%以上→肯定的評価98%
- 学校運営協議会、PTA ボランティア、親児の会の協力を借り、学校だけではできない教育に取り組む。「元気いっぱい 笑顔いっぱいの学校」

→本当に楽しい活動ありがとうございました。

来年度も、子どもたちのため、よろしく願いいたします。